



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして ～」

隈府小学校
学校だより No.22
文責 芹川博文
10月16日(金)

外の世界に目を向ける 隣の人に目を配る ～ だれかのために行動する時 人は輝く ～

子どもたちの思いだけでなく、保護者の方の思いも一緒に込められていることが伝わってきました。児童会で呼びかけた熊本地震の募金活動。わずか2日間でしたが尊い募金(右の金額)が集まりました。本当にありがとうございました。

今回の子どもたちの姿から見えてきたことがあります。それは、募金を呼び掛ける児童会の子どもの表情も、大事そうに力バンから封筒を取り出し、募金する子どもの表情も輝いて見えたことです。「だれかのために行動する時、人は輝く」ことを改めて感じた場面でした。募金する子の中には、お家の方から託された「使命」を果たすような緊張感さえ伝わってきました。

これをきっかけに、熊本地震に関するニュースに触れる時の子どもたちの意識が、「他人事」でなくなるかもしれません。

「集まったお金が、どんな事に使われるかな」と想像するかもしれません。一つの行動から関心や想像が広がっていくとしたら、素敵なことだと思います。

今、国内でも、国外でも、様々な問題の中で日常を奪われている方々がおられます。様々な問題や課題に、「なんだろう」「なぜだろう」と考えたり想像したりしていく事が、「自分のことだけ」という殻を破るきっかけになるかもしれません。そう思うと一つの体験、一冊の本、誰かとの話など、日常に様々なヒントはあります。考えること、想像することを大切にしたいものです。ちなみに、図書室には、ヒントになる素敵な本がたくさんあります。下の本もその中の一冊です。

目を向けるのは、遠い世界ばかりでなく身近にいる隣の人かもしれません。前期の終わりに、3年生の教室で、素敵なものを「発見」しました。それは、カラフルな手作りスクイーズ(ぶよぶよして気持ちを落ち着かせる癒しグッズ)です。手書きのメモには、「じゆうにさわってください。やぶけても大丈夫です。やぶけたら言ってください」と書いてありました。きっとこの児童は、「学級の友達が困った時、いらいらした時に、触って気持ちを落ち着かせてほしい」と考えて作り、学校に持ってきて、先生に相談したのかなと想像しました。

前期末に取り組んだ募金活動をヒントに、外の世界に目を向けること、隣の人に目を配ることを大切にして、自ら考え、なかまと高め合ってほしいと願います。(始業式で話した内容です)

41,412 円



中東の国 カタール まさに「別世界」



紹介したヨシタケ シンスケさんの本



児童手作りの癒しグッズ

小学生だからこそできること ～ 子どもは地域の「宝」 ～

小学生の姿に声援や拍手を送っている方々、その方々の笑顔を見た時、地域の中で小学生だからこそできることがあると確信しました。右の写真は、沿道の沢山の人々の間を歩く少年千本槍隊です。今年の15日は後期の初日。始業式の後5、6年生が往路と復路に分かれて参加しました。

今年の秋休みは天気にも恵まれました。その中で開催された沢山の地域行事。イベントに積極的に参加する意欲と体力、そして新しいことにチャレンジする心を伸ばしてほしいと願います。その姿はきっと地域を元気にすることでしょう。どんなに大人が頑張っても、かわなわなない輝きを感じます。子どもは家族の「宝」であるとともに、地域の「宝」。その輝きだと思います。

